

阿武町污水处理施設整備構想

平成29年3月
阿武町

1 はじめに

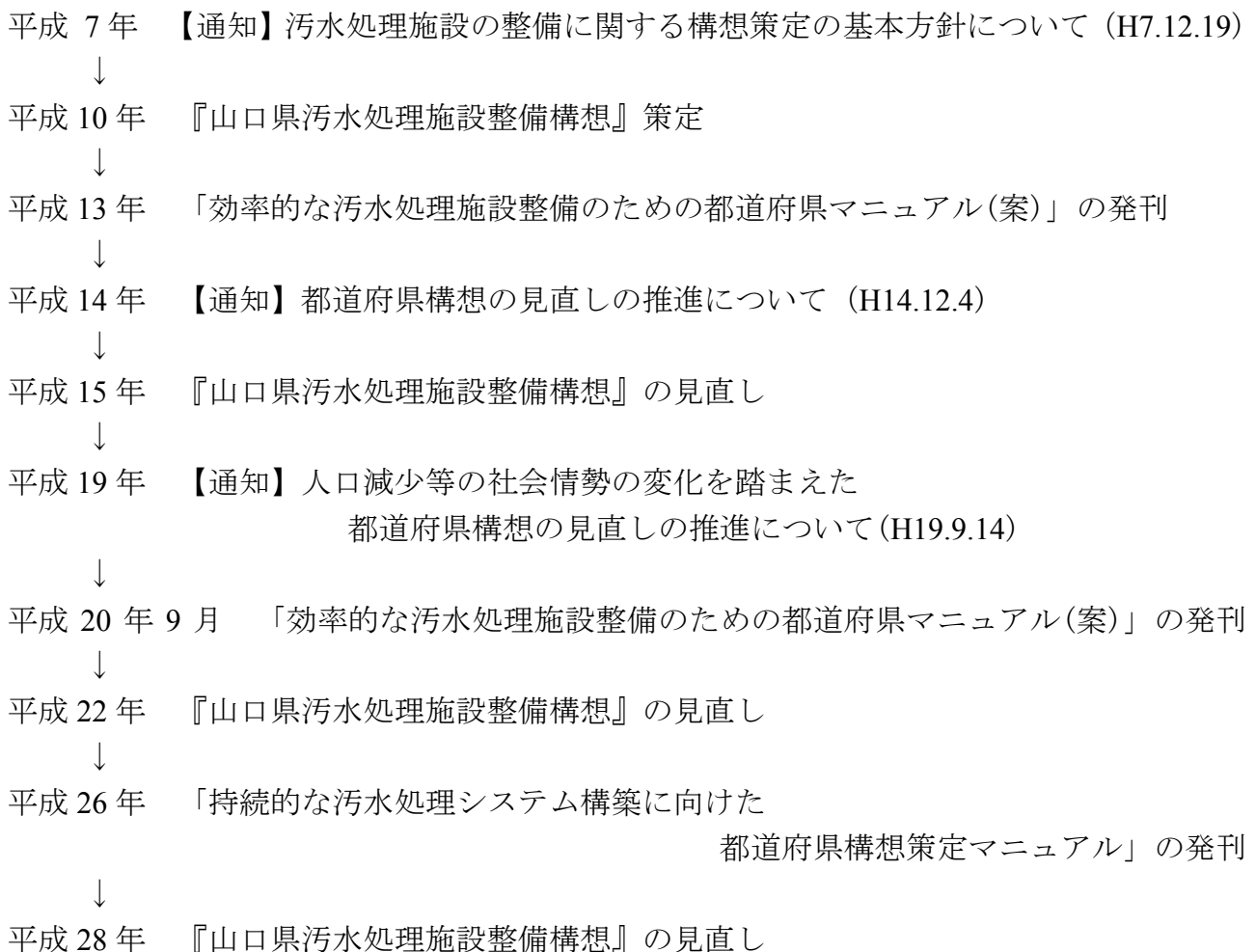
人々が健康で文化的な生活が実感できる社会を実現するためには、快適な生活環境や良好な水環境は必要不可欠であり、そのためには污水处理施設整備の充実は必須であるといえます。

水環境の保全、創造のためには下水道をはじめとする生活排水処理施設の整備が不可欠であり、本町においても、市街地、農漁村等を含めた町全域で効率的な污水处理施設整備の実現のため、各市町と県が協力して平成15年に「山口県污水处理施設整備構想」を、また、平成22年には改訂版を策定し、各部所が連携し計画的な整備、加入促進を進め、生活排水処理施設普及率は約90%となっています。

一方で、人口減少や国と地方の厳しい財政状況のなかで、これまで整備を行ってきた施設の長寿命化や更新、持続可能で安定した管理運営も必要で、生活排水処理施設整備を取り巻く情勢は大きな転換期を迎えております。

このため、社会環境の変化や管理計画の見直し、事業体系の変更等を行い現状に即した構想の見直しが求められており、長期的な視点での既存処理施設の計画的な改築・更新や運営管理の計画を取り入れた「阿武町污水处理施設整備構想」を策定するものです。

これまでの経緯



2 基本事項について

(1) 污水处理施設整備構想とは

川や海などの公共用水域の水質の保全、改善を図るため、家庭や事業所などから排出される汚水をきれいにする污水处理施設の整備を進める必要があります。

污水处理施設には大きく分類して公共下水道や農業集落排水施設などのように複数の家庭からの汚水を管渠で集約して1箇所で処理する「集合処理」と合併処理浄化槽などのように各家庭で汚水を処理する「個別処理」があり、それぞれの施設を整備する区域を集合処理区域、個別処理区域と言います。

污水处理施設整備構想は、町全域を対象に污水处理区域の設定を行い、今後の污水处理施設の整備を進めるうえでの基本方針となるものです。

3 污水处理施設の概要

(1) 污水处理施設のしくみ

污水处理施設のしくみと特徴を以下に示します。

①集合処理施設（下水道・集落排水等） ※阿武町は集落排水のみ

集合処理施設は、家庭の台所・水洗トイレ・風呂場及び事業所・工場等から排水される汚水を集めて流す「下水管」と、汚水を処理する「処理場」、またこれらの施設を補完する「ポンプ場」等から成り立っています。

② 個別処理施設（個人設置型及び市町村置型合併処理浄化槽等）

個別処理施設は、し尿と雑排水を併せて処理する施設で、一般に家屋単位にて設置される施設です。なお、個人設置型は個人が設置し維持管理についても各個人が行うのに対し、市町村設置型は、市町村が設置、維持管理を行います。

(2) 污水处理施設整備による効果

污水处理施設を整備することにより、以下の効果が得られます。

①家庭から出る生活排水等の汚水が周辺水路等に流れなくなるため、蚊やハエなどの発生を防ぎ、伝染病を予防し、街を美しく清潔にします。

②水洗トイレが使える、汲み取り便所の悪臭や汲み取りの手間から解放され、清潔で快適な生活ができます。

③汚水を適正に処理し放流することにより、公共用水域の水質が改善されます。

4 污水处理施設の整備の現況

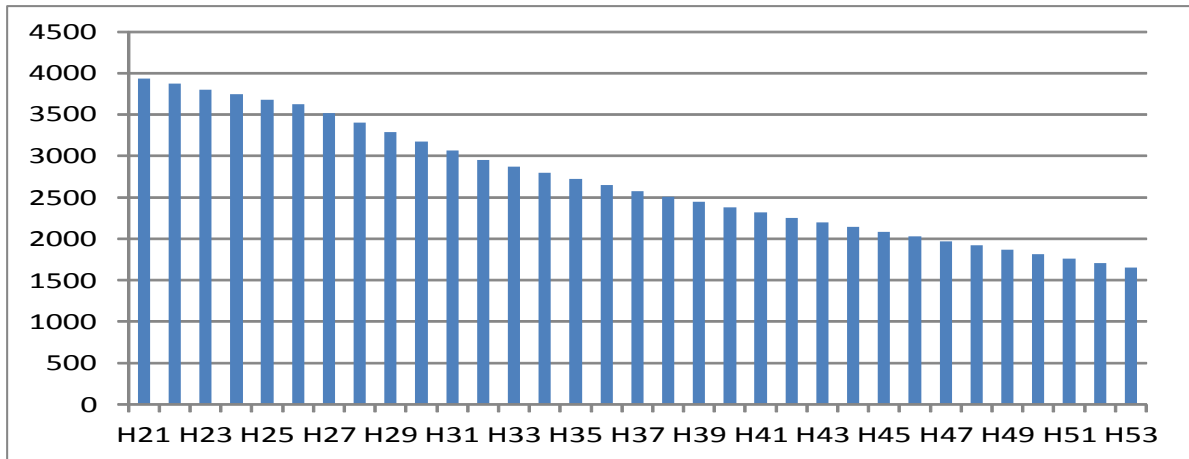
図面 対象 番号	処理区	事業名	処理区域内人口		水洗処理		普及率 (%)	供用 開始 年度
			世帯数 (戸)	人口 (人)	世帯数 (戸)	人口 (人)		
I	阿 武	農業集排水事業	2 1 3	4 9 2	1 9 9	4 6 4	9 4 . 3	H 5
II	郷 川	農業集排水事業	3 0 2	7 4 9	2 8 0	7 1 2	9 5 . 1	H 8
III	福田下	農業集排水事業	1 2 7	2 6 6	1 1 6	2 4 4	9 1 . 7	H10
IV	木 与	農業集排水事業	1 8 4	2 9 5	1 8 1	2 8 8	9 7 . 6	H12
V	河 内	農業集排水事業	2 1	5 0	2 1	5 0	1 0 0 . 0	H10
VI	惣 郷	農業集排水事業	6 7	1 0 9	6 5	1 0 7	9 8 . 2	H12
VII	奈 古	漁業集排水事業	2 7 8	5 8 3	2 6 0	5 4 9	9 4 . 2	H 1
VIII	宇 田	漁業集排水事業	1 3 8	2 8 6	1 3 4	2 8 1	9 8 . 3	H 8
IX	尾 無	漁業集排水事業	3 0	6 0	2 9	5 9	9 8 . 3	H10
X	宇生賀	農業集排水事業	5 7	1 2 2	4 9	1 0 8	8 8 . 5	H16

平成28年3月31日現在

1 人口、世帯数の現況と見通し

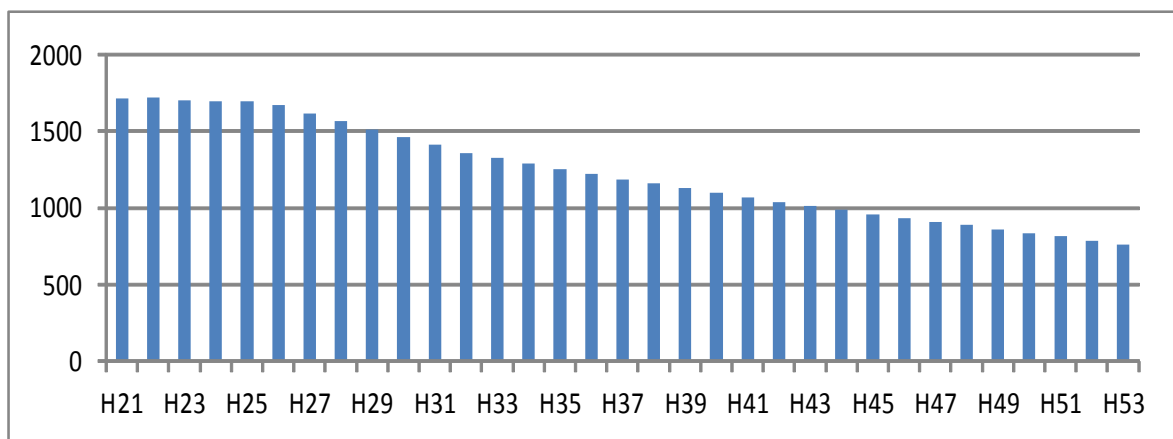
阿武町の将来予測人口

人口(人)



阿武町の将来予測世帯数

世帯(戸)



6 水環境の現況等

阿武町は山、川、海など、豊で美しい自然に恵まれています。また、下水処理施設は人口の9割が整備済みであり、現在、私たちは健康で文化的な生活を送ることができています。今後も、この生活環境を維持していくため、河川や海域等の公共用水域の水質を保全し、快適で潤いのある水環境を、持続していくことが重要です。

7 地理的、地形的特性

本町は、海岸部の奈古区と宇田郷地区、山間部の福賀地区で構成され、それぞれへの移動時間は車で10分から30分と大きく距離が離れています。

奈古と宇田郷地区においては、家屋が密集した漁村部と、家屋が点在する農村部があるほか、福賀地区においては家屋が点在する農村部で、かつ、それぞれの地区が山等で隔たれていることが特徴です。

8 策定方針の決定

(1) 早期の污水处理施設の既成

阿武町内において計画区域における集合処理施設については既成済みであり、今後は当区域内における未加入者の繋ぎ込み拡大や、区域外における水洗化未家庭の個別処理施設設置数拡大が目標です。

(2) 目標年次及び施設の効率的な改築・運営管理、既整備地域の運営管理に関する方針

阿武町内の各集合処理施設は既成済みですが、一方で老朽化が進んでおり、今後、計画的に持続可能な改築を行う予定です。

また、地理的条件等により統合可能な施設については、人口減少の推移を勘案しながら、検討していきます。

なお、今後の人口動向等の状況変化により概ね5年ごとに改めて評価を行い、污水处理施設整備構想を見直すこととします。